

TOKYO FUTURE VISION 東京未来ビジョン 懇談会 通信

第 7 回
2018.2.6-3.1
東京都
発行：政策企画局計画部

この懇談会は、都における政策の推進や政策形成等に新たな発想を取り入れるため、各界の第一線で活躍している新進気鋭の若手の方々と意見交換を行うことを目的に設置されました。

出席者：小池百合子(座長) 青木亮輔 太田雄貴 落合陽一 菊地裕介 宿輪理紗
田口亜希 田根剛 西田圭志 長谷部健 パックン メイミ
モハメド・オマル・アブディン 山科ティナ ※敬称略、五十音順

※ 画像をクリックすると動画が見られます

菊地裕介氏のプレゼンテーション

「ふれあい文化都市『東京』」をテーマに、人間は何を楽しみに生きているのかということを考えています。テクノロジーが進化してバーチャルが充実するほどに、生きた物への欲求は高まります。そして、東京には、第一級のふれあい文化都市の可能性があるのです。これからも、人間性の指標となるようなリベラルアーツを大切にできる都市が、人間の生活空間として生き残っていくことができるのではないのでしょうか。



スポーツの見方も、可視化を含めて、違う切り口からつくっていくことが、すごく重要。子供たちを引っ張っていくには、楽しい体験を提供し続けたいいけない。(太田氏)

東京は世界中から吸引力がある。「センター街にピアノを置く」などのように、計算して仕掛けていけば、文化が景色になっていく可能性があるのではないか。(長谷部氏)

子供の頃から、「わざわざ感」なく芸術や文化に触れさせることが第一歩になるのではないか。(宿輪氏)

出席者の発言

文化は、まずいものをまずいと思わずに食べてみないとおいしさが分からないように、まずはアートを見に行かないと。観賞教育が足りないことが問題と思う。(落合氏)

AIが発達して、皆が自己実現のために時間を使えるようになり、クリエイティブ側に回れば、文化が豊かになる。明るい未来が見えた。(山科氏)

高齢者の方、認知症の方も、AIの活用やサポートで、芸術や文化を楽しめる環境ができてくるといい。(メイミ氏)

懇談会のアウトプットに関する意見交換

2月6日、非公開にて、東京未来ビジョン懇談会のアウトプットに関する意見交換を行いました。内容につきましては、後日発表されますアウトプットまでお楽しみにしてください。

東京未来ビジョン懇談会に新たなメンバー

3月1日、新たなメンバーとして、市来健太郎氏が参加することになりました。『恋する芸術と科学』の主宰／編集長をされています。よろしくお願ひします。